

届けよう 私の気持ち 受け取ろう あなたの気持ち

— 情報機器を活用した異学年交流の推進 —

兵庫県神崎郡市川町立甘地小学校 教諭 松本 正樹

1. ねらい

一人ひとりの児童が自分の考えをみんなの前で発言し、また、他の児童はその意見を素直に聞くことができればそこから対話が始まる。同一学年間でさえ対話を持ってない児童がみられる。共通の話題に参加できない。異学年児童間では、一緒に遊ぶことはほとんどなくなっている。ますます共通話題がなく集団づくりの成立が難しくなっている。本校では、1年生から6年生をなかよしグループに縦割り集団化し、遊び・清掃などに活動させながら異学年交流を実践している。生活のかぎられた時間だけでなく、学習においても交流の機会を多く設定し、児童の心の教育をさらに深めようと考えた。学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力などの能力を情報機器で高めながら交流実践活動を推進した。

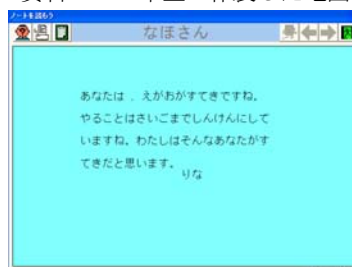
2. 実践の概要

(1) 3年生の地域学習(社会科)をすすめながら、地域マップを作成する。(使用ソフトハイパーキューブ)地域のすばらしいところを取り入れながらコンピュータで地図を作成した。作成した地図は1年生がマウスを使い迷路遊びに利用し、マウスの使い方能れる学習目的をもって交流した。



資料1 3年生の作製した地図

(2) 同じ縦割りグループの児童間でお互いのいいところを探し、メール交換交流を行った。4年生から6年生の縦割り班グループで実施した。1グループ10名(4年3名 5年3名 6年4名)で、10グループを編成している。学年・クラス別にメール作成を行った。日々の生活の中で深く見つめる機会を設定し児童を知る実践をすすめた。(使用ソフト スタディノート)

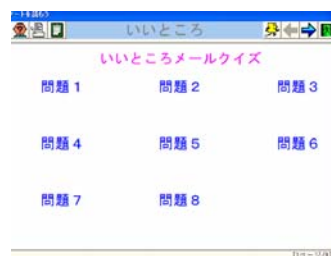


資料2 メール交換

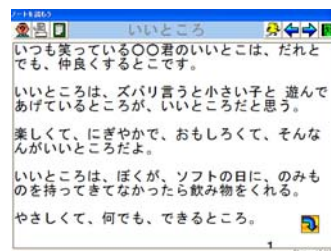
(3) 総合的な学習のまとめ発表を、校内テレビ放送を活用し全校に放送をした。生活と地域に関連したテーマ(5年生食の学習)で取り組むことから、どの学年にも伝わる表現方法を工夫しながら実践した。発表に対する感想を集め、交流をすすめながらふり返り学習を実施した。総合的な学習の次年度へ広がりも期待できる。

3. 成果と課題

(1) コンピュータを使い始めたばかりの1年生にとって、3年生の作成した地図は大変興味を引く迷路となった。マウスを移動させ線が地図上に残っていくことは、コンピュータをはじめ使う子どもたちに新鮮な喜びがあったようである。その楽しさを手紙に表現し3年生に届けた。3年生は自分の作品を認められ自尊心を高めることができ、運動場で1年生といっしょに過ごす姿も見られた。



(2) いいところを書かれたメールを読む喜びは、相手をさらに肯定的に見つめる目を育てることにつながった。子どもたちは、届いたメールに返信することでメールの楽しさを体験した。届ける先にいる人に対する気持ちの大切さも学習に取り入れ、モラル学習に広げることも出来た。



資料3 いいところクイズ

(3) 異学年間において総合的な学習の取り組みを知ることになり表現力の伸長や学年間の深まった課題設定に広がってきた。「発表することは伝えること」の認識に立って表現力を高め、取り組むことができるようになっていく。多くの校内の児童に知ってもらうことで自尊心を高め、低学年の人たちにもわかってもらえる発表を工夫し、発表方法に意欲を持ち学習を深めることができた。